

# 感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2024年第35週 (8月26日～9月1日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

## ●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2024年第1週から)

疾患名	報告数	累積
<b>[1類]</b>		
(報告なし)		
<b>[2類]</b>		
結核	257	10161
<b>[3類]</b>		
コレラ		2
細菌性赤痢	6	50
腸管出血性大腸菌感染症	139	2209
腸チフス	4	30
パラチフス		4
<b>[4類]</b>		
E型肝炎	10	357
A型肝炎	4	102
エキノкокクス症		6
エムボックス <sup>1)</sup>		15
オウム病		3
回帰熱		10
Q熱		6
コクシジオイデス症		1
ジカウイルス感染症		1
重症熱性血小板減少症候群		91
ダニ媒介脳炎		2
チクングニア熱		3
つつが虫病	1	105
デング熱	14	153
日本紅斑熱	20	266
日本脳炎		1
ブルセラ症		4
ポツリヌス症		4
マラリア		32
ライム病	1	22
類鼻疽		2
レジオネラ症	43	1437
レプトスピラ症	1	7
<b>[5類]</b>		
アメーバ赤痢	7	362
ウイルス性肝炎 <sup>2)</sup>	2	144
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 <sup>3)</sup>	45	1378
急性弛緩性麻痺 <sup>4)</sup>		29
急性脳炎 <sup>5)</sup>	14	373
クリプトスポリジウム症		15
クロイツフェルト・ヤコブ病		101
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	17	1437
後天性免疫不全症候群	8	659
ジアルジア症		27
侵襲性インフルエンザ菌感染症	14	449
侵襲性髄膜炎菌感染症		38
侵襲性肺炎球菌感染症	18	1733
水痘 (入院例に限る)	7	327
梅毒	228	9513
播種性クリプトкокクス症	3	137
破傷風	3	55
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	89
百日咳	92	1317
風しん		6
麻疹		28
薬剤耐性アシネトバクター感染症		4

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

## ●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ <sup>6)</sup>	1874	0.38
新型コロナウイルス感染症	36891	7.46
RSウイルス感染症	2039	0.65
咽頭結膜熱	823	0.26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5501	1.75
感染性胃腸炎	8241	2.63
水痘	385	0.12
手足口病	17872	5.70
伝染性紅斑	500	0.16
突発性発しん	924	0.29
ヘルパンギーナ	2561	0.82
流行性耳下腺炎	112	0.04
急性出血性結膜炎	13	0.02
流行性角結膜炎	329	0.47
細菌性髄膜炎 <sup>7)</sup>	15	0.03
無菌性髄膜炎	16	0.03
マイコプラズマ肺炎	569	1.18
クラミジア肺炎 <sup>8)</sup>	2	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) <sup>9)</sup>	3	0.01
インフルエンザ (入院患者)	43	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者)	3029	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	沖縄、宮城、埼玉
新型コロナウイルス感染症	▼	岩手、青森、福島
RSウイルス感染症	▲	山形、岩手、新潟
咽頭結膜熱	▼	鹿児島、岩手、大分
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	鳥取、福岡、茨城
感染性胃腸炎	▲	大分、福井、石川
手足口病	▲	富山、滋賀、山形
伝染性紅斑	▲	東京、神奈川、青森
ヘルパンギーナ	▲	宮崎、北海道、山形
流行性耳下腺炎	▲	長崎、岩手、福島、宮崎
マイコプラズマ肺炎	▲	愛知、大阪、兵庫、岐阜

## ◆マイコプラズマ肺炎

2010～19年の定点当たり報告数は、第20週付近から増加し始め、第42週～翌年第2週にピークを迎える一峰性の増減がみられた。2024年も、第20週付近から定点当たり報告数が増加している。第27～33週は継続して前週より増加し、第31～35週は、2014年以降最も多い水準で推移していた。